

「健全な種イモの確保に向けた蒸熱処理の実践と課題」講演要旨

農研機構九州沖縄農業研究センター 荒川祐介

サツマイモ基腐病は、罹病した種イモやそれから得た感染苗、土壌に残った発病残さにより発生が拡大することから、「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」の「3ない対策」を網羅的に講じる必要があります。

かんしょは種イモから苗を育て、これを本ぼに定植することから、健全種イモの確保は「持ち込まない」対策として第一に重要です。見かけ上健全な種イモもすでに基腐病菌に感染している場合があるため、慣行では化学合成農薬を用いて種イモの消毒を行います。薬液浸漬後の種イモ乾燥や廃薬液の処理が負担となることから、化学的防除に替わる新たな防除技術の開発が課題となっていました。

農研機構では三州産業株式会社らと連携し、イモ組織に内在する基腐病菌に対して安定した効果が得られる防除対策として、蒸熱処理による種イモの消毒技術を開発してきました。蒸熱処理は50℃前後の飽和水蒸気の凝縮熱を利用して種イモに潜む基腐病菌を消毒するものです。昨年より当方らの提案した処理基準（種イモを4時間40分かけて加温後、48℃、95%RHにて100分間処理）が、鹿児島県下のJA等が実施する種イモの蒸熱消毒に採用され、今年のかんしょ生産に活かされています。

今般、生産現場での活用推進と失敗しない蒸熱処理実施に向け、標準作業手順書（SOP）を作成しましたので、本講演でその概要を紹介するとともに、生産現場での蒸熱処理の効果の実証結果、課題について整理し、今後の取組の方向性や展望について皆様と議論を深めたいと考えております。

サツマイモ基腐病に対する蒸熱処理による  
種イモ消毒技術標準作業手順書の入手方法について

右の二次元コードよりフォームに入力して請求願います。（〆切 9/20 16:00）

<https://forms.office.com/r/Rz9wUzf2in>



## 標準作業手順書の構成

### I. サツマイモ基腐病および蒸熱処理技術について

#### 1. サツマイモ基腐病について

病徴、感染経路等本病の特徴について基本的な事項を整理



サツマイモ基腐病の病徴（茎）

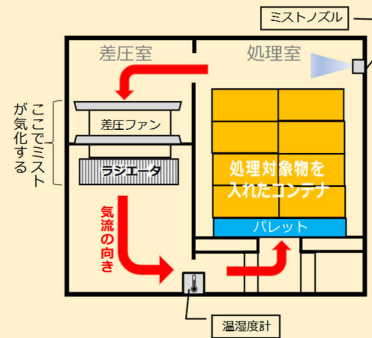


サツマイモ基腐病の病徴（塊根）

生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

#### 2. 蒸熱処理技術について

蒸熱処理技術の原理、適用事例種イモと基腐病菌の耐熱性等について基本的な事項を整理



蒸熱処理装置の模式図

### II. 種イモの蒸熱処理の実際

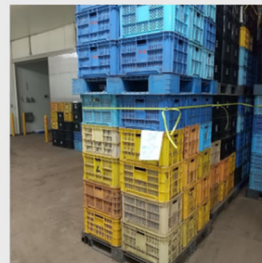
種イモ収穫から蒸熱処理、伏せこみまでの一連の作業の中の重要管理点を提示



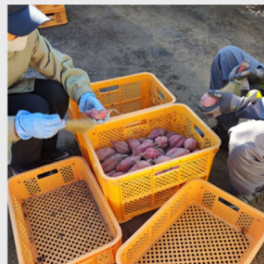
収穫  
優しく扱う



蒸熱処理  
貯蔵前推奨



貯蔵  
低温は×



選別  
伏せこみ直前



伏せこみ